

学習指導案 作成のポイント

【Point】

- ・単元の目標は、学習指導要領の該当ページを参照して設定します。
- ・記入例は、算数科の当該単元の資質・能力が示されているP82、86を参照しています。

【Point】

- ・「学びに向かう力、人間性等」は、内容ごとに資質・能力が示されていないので、学習指導要領の「学年の目標 (3)」と当該単元で学ぶ内容を併せて、単元の目標を設定します。

【Point】

- ・単元の評価規準は、3つの柱で記載した単元の目標を3観点で評価します。
- ・それぞれの資質・能力について、以下の項目を設定して、評価します。

〔知識及び技能〕

→知識・技能

〔思考力、判断力、表現力等〕

→思考・判断・表現

〔学びに向かう力、人間性等〕

→主体的に学習に取り組む態度

算数科学習指導案（記入例）

令和〇〇年〇月〇日〇曜日
 第〇校時 〇時〇分～〇時〇分
 〇年〇組 〇名
 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 「割合」（第5学年）

2 単元の目標

- (1) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解するとともに、百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めることができる。
〔知識及び技能〕 C(3)ア(ア)(イ)
- (2) 日常の事象における数量の關係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C(3)イ(ア)
- (3) 二つの数量の關係に着目し、割合を用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係とを比べる場合に、割合がいつでも変わらない場合は割合を用いて比べられることを知り、割合を用いて比べることができる。	①日常の事象における数量の關係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係との比べ方を考察し、場面にあった比べ方を判断している。	①二つの数量の關係に着目し、割合を用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。
②百分率の意味について理解し、百分率を用いて表すことができる。	②日常生活の問題（活用問題）を、割合を活用して解決している。	
③比較量と基準量から割合を求めたり、基準量と割合から比較量を求めたり、比較量と割合から基準量を求めたりすることができる。		

【Point】

- ・評価規準の文言は、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照すると、単元の目標に基づいた規準を設定することができます。
 （記入例は、P144 小学校算数 第2編、巻末資料（2 内容のまとめりごとの評価規準（例））を参照）



各教科等の
WEB版は
こちらから↓



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
 （国立教育政策研究所 令和2年3月）

4 指導と評価の計画（全9時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等 「○」：「記録に残す評価」 「・」：「指導に生かす評価」
1	○シュートの入りやすさを比べる事象で、入った数と投げた数を整理し、「着目した数量によってどのようなことがいえるか」を話し合う活動を通して、「二つの数量の関係の比べ方を考える」という単元の課題を見通す。 ○「基にする量の何倍」という割合の見方を働かせて、割合を用いた二つの数量の関係の比べ方を図や式を用いて考え説明する。	<p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習活動」は、主体的・対話的で深い学びの視点から、児童生徒の具体的な学習活動を位置付けます。 自分の考えを端末上に書き込み、自由に他者を参照できるようにする。 自分の考えを書き込んでいない児童を中心に個別支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 思①（行動観察、ノート又は端末） 態①（行動観察）
2	○4人のシュートの入った割合を求め、誰がシュートを一番成功させたといえるかを考える。 ○「基にする量の何倍」という割合の見方を働かせて、1を超える割合を求める。	<ul style="list-style-type: none"> 前時を基に、すぐに自力解決するか、教師と対話しながら学習を進めるか、児童で選択するか、児童で選択する。 選択した方法の変更、他者との情報交換は自由とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 知①（ノート又は端末） 態①（行動観察）
3	○百分率や歩合を用いた割合の表し方を理解するとともに、日常生活で用いられている場面を調べ、その場面での割合の表す意味を考える。	<p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「指導上の留意点」は、教師が、単元の目標を達成するために留意することを記入します。（端末活用、個別最適・協働的な学びをどこで行うかなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 知②（ノート又は端末） 態①（ノート又は端末）
4	○果汁の割合と飲み物の量が示された事象において「基にする量の何倍」という割合の見方を働かせて、基準量と割合から比較量を求める。	<p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「指導上の留意点」は、教師が、単元の目標を達成するために留意することを記入します。（端末活用、個別最適・協働的な学びをどこで行うかなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 知③（ノート又は端末）
5	○前時から条件を変えた事象で、比較量と割合から基準量を求める。 ○比較量と基準量から割合、基準量と割合から比較量、比較量と割合から基準量を求める方法の関連について図を用いて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 共同編集機能を活用し、割合、比較量、基準量を求める図を並べたシートに考えを記入し、対話を通して関連付けや焦点化できるようにする。 <p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「評価規準・評価方法等」は、「3 単元の評価規準」で設定した評価規準をどの時間で評価するか、漏れ落ちがないように位置付けます。 <p>〔表記の仕方〕 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知③（ノート又は端末） 態①（ノート又は端末）
6	○飲み物を分けたとき、果汁の割合が変わるかどうかについて、必要な数量を設定して考える。	<p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「評価規準・評価方法等」は、「3 単元の評価規準」で設定した評価規準をどの時間で評価するか、漏れ落ちがないように位置付けます。 <p>〔表記の仕方〕 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 思①（行動観察、ノート又は端末） 態①（ノート又は端末）
7	○日常の買い物の場面を通して、「■%引き」の代金や「□%増し」の値段の求め方を考える。	<p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「評価規準・評価方法等」は、「3 単元の評価規準」で設定した評価規準をどの時間で評価するか、漏れ落ちがないように位置付けます。 <p>〔表記の仕方〕 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 思②（行動観察、ノート又は端末）
8	○「■割引」や「□円引き」など異なる値引きの表示を比較し、どちらが安く買えるか比較する。	<p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「評価規準・評価方法等」は、「3 単元の評価規準」で設定した評価規準をどの時間で評価するか、漏れ落ちがないように位置付けます。 <p>〔表記の仕方〕 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 思②（行動観察、ノート又は端末分析） 態①（ノート又は端末）
9	○学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	<p>【Point】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「評価規準・評価方法等」は、「3 単元の評価規準」で設定した評価規準をどの時間で評価するか、漏れ落ちがないように位置付けます。 <p>〔表記の仕方〕 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知①②③（テスト） 思①②（テスト）

【Point】

- ・1時間当たりの評価規準は、多すぎると評価しきれません。
- ・多くても2つ程度とし、児童生徒の学習状況を指導の改善に活かすことが大切です。
- ・記入例では、以下のとおり整理して記載しています。

「○」：総括の資料とするため、全ての児童の学習状況を記録に残す評価→蓄積し、年度末に指導要録の評定に活用

「・」：「努力を要する」児童の把握など、その後の指導に生かすための評価

【Point】

- ・「本時の目標」は、「4 指導と評価の計画」の当該時間の内容を基に、本時の学習活動を踏まえて、具体的に記入します。
- ・記載例では、「4 指導と評価の計画」を踏まえ、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点の目標を設定しています。

【Point】

- ・「児童の反応」は、既習事項や学級の実態を基に、可能な限り具体的に想起しておくこと、授業実践の際、児童の発言に対する価値付けや問い返しなどに役立ちます。

【Point】

- ・個別最適な学びと協働的な学びは、一体的な充実を図ることが大切です。
- ・記載例では、「解決方法を自己選択」「友達との情報交換を奨励」などの工夫を行っています。

【Point】

- ・本時の目標の達成や学習活動の充実に向けて、一人一台端末を最大限に活用することに挑戦しましょう。
- ・記載例では、共同編集機能の活用や上位の児童の発展的な学習で活用を計画しています。

【Point】

- ・全体のまとめをもって授業を終えてしまえば、児童一人一人の学びを保障していくことにつながりません。
- ・記載例のように、まとめの後に、適応問題や振り返りの時間を十分に確保することが大切です。

5 本時（8／9時）

(1) 本時の目標

- ・割引の条件が違う二つの代金を考える活動を通して、日常生活の問題を、割合を活用して解決することができる。
- ・割合を日常生活の場面で活用しようとしている。

(2) 展開

	○主な学習活動 ・児童の反応	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	○ スーパーでは、1リットル290円の牛乳を2割引で、市場では1リットル300円の牛乳を50円引きで売っています。どちらがお得に買えるかを考え、説明しましょう。		
	<p>【本時の課題】 何割引と何円引きを比べる方法を考えよう</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもつ。 ・ 割引の条件が違うから、比べられない。 ・ 割引の条件を合わせると、比べられそう。 ○ 自分なりの方法で問題解決に取り組む。 <p>【個人・協働で解決】※自己選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2割引が何円引きか分かれば、比べられると思うよ。 ・ 2割を出すにはかけ算か。 ・ 50円が何割なのか調べてみよう。 ・ 2割引は、8割で買えるということか。 ・ 市場は、300-50で、すぐに代金が分かる。スーパーでの代金を出してみよう。 ・ 線分図や関係図を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間で解決できる児童もいることから、時間をかけすぎない。 ・ 解決方法を自己選択させる。 ・ 友人に聞く場合、教える場合は、まず考え方などのヒントを共有するよう伝える。 ・ 協働、ヒント閲覧などでも、解決が難しい子に、線分図、関係図等で支援する。 	<p>「努力を要する」児童への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 線分図 ・ 他者参照 ・ 既習の確認（比較量、基準量）
	<p>【全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①290円の2割を計算して、280円から引く。 ②290円の8割を計算する。 ③50円が何割になるのか計算する。割り切れなくても、2割より大か小かでどちらが得かが分かる。 		
終末	○まとめ		
	<p>どちらも何円引きや何割引のように、同じ割引条件にして計算すると、比べることができる。</p>		
	○適応問題 ○学習の振り返り	・端末の自動採点機能を活用	<ul style="list-style-type: none"> ○思② (行動観察、ノート又は端末) ○態①(ノート又は端末)

【Point】

- ・「誰一人取り残すことのない」授業に向けて、「『努力を要する』児童」への支援を計画しておくことが大切です。

【Point】

- ・学習の振り返りは、学習の感想を書かせることに加えて、学年の発達段階や学級の実態によっては、「どのような課題に対して」「どのような解決方法を選択し」「その結果、どのような学びがあったか」など、観点を示すことにより、本時の学びに深まりが生まれます。